

## 1992 年度学会賞受賞作品・授賞理由

---

### ◆石川賞生きている都市つくる都市ヨコハマからの実践的都市論

小澤 恵一(横浜市都市計画局長)

〈選考理由〉

小澤恵一氏は昭和47年横浜市企画調整局企画課長就任以来、今日、都市計画局長に至る21年間、横浜市の主要プロジェクトの6大事業(都市部再開発、港北ニュータウン、地下鉄、都市高速道路、金沢埋立て、ベイブリッジ)の総合調整、並びにその後の新規プロジェクト、即ち「みなとみらい21」、「ポートサイド」、「戸塚東口再開発」、及び「上大岡再開発事業」等の計画の策定と事業の推進において中心的な役割を果たしてきた。

今回、直接受賞の対象となった著書「生きている都市、つくる都市、ヨコハマからの実践的都市論」は以上のまちづくりにおいて得た自己体験をまとめているものであるが、組織の中にながら組織の既存の行動パターンを超えて新しい局面を開いていこうとする熱意と行動力、そして自己の体験を照らして、益となるものを広く伝えていこうとする姿勢は高く評価されるものであり、まちづくりにおける大きな業績と価値の高い著書は石川賞に十分値するものであると判断された。

### ◆計画設賞遊びと創造の都市(まち)『日立駅前地区』

飯山 利雄(日立市代表 市長)

〈選考理由〉

本候補の業績は常盤線日立駅に隣接する「日立駅前地区」を市民の遊びと創造の都市拠点として設計、計画、事業化したものである。

日立市の所有地12.6haの区域を土地区画整理事業によって基盤整備を行い、この土台の上に、日立新都市広場(多目的広場、ホール、会議室、地下駐車場)、ショッピングモール(タイル舗装、噴水、造形物、植栽等)、日立シビックセンター(ホール、科学

館, プラネタリウム, 図書館, 会議室, 福祉関係施設等)をタイミングよく計画, 事業化し, 合わせて大型店, 専門店街, ホテル, 業務ビル等の民間施設を導入し, 茨城県北部広域圏の都市拠点を創出して, 訪れる人に賑わいと楽しみを提供している。また, 適切な事業手法とともに地区計画制度を取り入れ, 景観に配慮した設計・計画を行っている。

以上, 本業績は計画設計賞に相応しいものと判断された。

### ◆論文賞新都市建設にかかおる開発方式の研究—協調・誘導型新都市開発方式の必要性とその適用性—

椎名 彪((財)民間都市開発推進機構常務理事)

〈選考理由〉

本論文は新しい都市開発方式の一つとして, 公と民の協調・誘導型のものを提案したもので, 公の開発目標と民間活力を結びつける積極的な方法を提唱している。

その特徴として,

- (1)民間活力を活用して, 公の目指す開発計画を協調・合意型で誘導すること
- (2)個別の開発許可方式をとらずに, 一元的な総合的开发を可能とする総合開発許可方式をとること
- (3)開発利益の公的還元の理念の実践を可能にし, 開発の質の向上とスピードアップを図ること

などが指摘できる。

著者は政令指定都市である広島市在職中の広島市西部丘陵都市開発計画において長らく開発が凍結されていた同地区の開発計画をまとめるに当たって, 指導的立場においてこのような新しい方式を摸索し, 試み, ディベロツパーの開発希望と市の開発目標を合わせる方法として, このような開発理論を生み出すに至ったものと考えられる。この方式は民間活力を誘導・活用する方法として有効なものと考えられる。

本研究は従来の開発協議会方式を更に一步進めたものであり、都市計画の発展に大きく貢献するものと評価され、よって本論文は本学会の論文賞に相応しいものと判断した。

## ◆石川奨賞土地区画整理事業の技術移転にかんする一連の研究および活動

西山 康雄(名古屋工業大学工学部社会開発工学科助教授)

〈選考理由〉

発展途上国においては、大都市への急激な人口集中が発生しており、都市基盤整備は急務である。

一方、その為の用地確保は財政的、政治的に非常に難しいことが多く、そのような解決方法として、区画整理手法を発展途上国に技術移転しようとする試みがこの5～10年間、国内外から注目されながら、行われてきた。

西山氏はこのような背景のもと、大学人としてその為の理論的研究を進め、更に建設省と協力しながら実践・啓蒙活動も行い、いくつかの国では氏独自の努力で実践活動を行っている。その意味では一大学人としての研究活動だけでなく、都市計画の実践活動を含めユニークな活動を行い、成果をあげつつある。

今後ともこれらの活動による成果があげられることは、発展途上国にとっても大きな果実となることが期待されるので、今回石川奨励賞に十分値するものと判断された。

## ◆論文奨励賞フランスの公的住宅の『団地更新事業DSQ』を中心とした総合的管理に関する研究

大家 亮子(住宅総合研究財団特別研究員)

〈選考理由〉

本論文は住宅に関する政策についてフランスの制度を整理し、住宅地の整備に関する再開発の部分の都市計画の政策について整理し、DSQが両者の中間的な新しい領域を作っていると位置付け、更に詳細にDSQの実態を整理し、家賃のみならず、コミュニティ活動を含めた住宅を中心とする社会的要素についてDSQの実態を整理

したものである。膨大な内容のものをきわめて明確に分析し、整理していて優れた論文である。

住宅法を持たない日本においては、なじみにくい議論を丁寧に解説しながら、ストック改善にどのような観点から政策、制度、運営、工事、管理をしていくかを示し、そのことはそのまま多くの有意義な知見を提供している。

十分、論文奨励賞を与えるに値する論文であると判断される。

#### ◆論文奨励賞同潤会アパート原景

マルク・ブルディエ(フランス国立社会科学高等研究院現代日本研究センター研究員)

〈選考理由〉

本書はわが国都市住宅の原型を形造った重要な組織である同潤会の活動について総合的、多面的にその全体像を明らかにしようと取組んだ意欲的研究である。

広く資料・文献を収集、分析し、また関係者へのヒアリングも行い、学術的研究として、価値の高いものとなっている。

語学のハンディを乗り越えてこのような形で研究を取りまとめた力量も高く評価される。

直接的な比較研究ではないが、フランス人の著者の視点から見た同潤会のユニークさの発掘は日本人が気のつかない点を指摘しており、巧まずして比較の視点がでている。

論文奨励賞に値する著作と考える。

#### ◆論文奨励賞景観体験の範列的側面と統辞的側面に関する研究－空間のアイデンティティにおける景観体験の位置づけ－

齋藤 潮(東京大学工学部土木工学科助教授)

《選考理由》

本研究は、都市ないしは、それ以下の規模における地域の外部空間のアイデンティティと、ある具体的・特定な視点における視覚情報(眼前の景観)との有機的な関係について、考察を行ったものである。

本研究は景観構成・把握における「範列的」「統辞的」関係の存在することを呈示し、それらの内容・構造を明らかにしたものであり、景観計画上資するところが少なくないものといえる。論述も分かりやすく、説得力があり、論文奨励賞に値する研究と考える。